

食品営業場におけるハエの種類と季節的消長について

藤井 幸彦 . 高橋 忠史 . 小西富美代

香 川 県 坂 出 保 健 所

昭和 41 年 11 月 2 日 受 領

緒 言

衛生害虫の種類および季節的消長についての研究は、本邦でも決して少なくはないが、一般にその様相は、地方によっていちじるしく相異なるものである。私たちは本年(1966)5月以来、坂出市の飲食店と魚介類販売店に侵入するハエの種類と消長について長期観察を行ない、2, 3 注意すべき点を見出したので、以下その大要を述べて食品衛生指導上の参考に供したい。

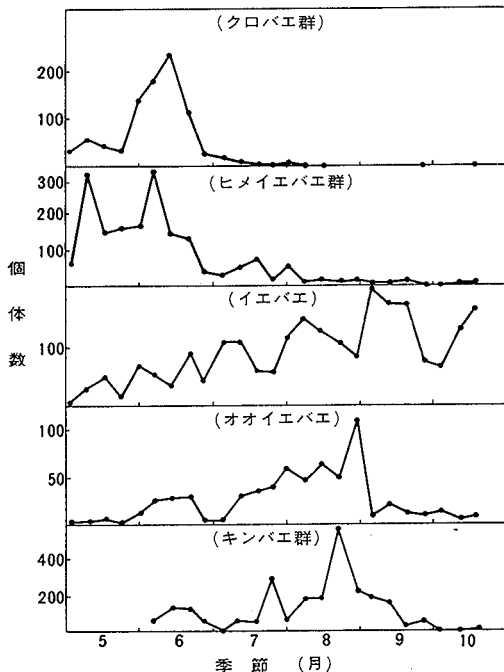
なお、この調査の実施にあたり、終始激励援助をいただいた香川県坂出保健所寺内等所長ならびに今回とくにご指導いただいた香川大学農学部、松沢寛教授に深甚の謝意を表する。

調 査 方 法

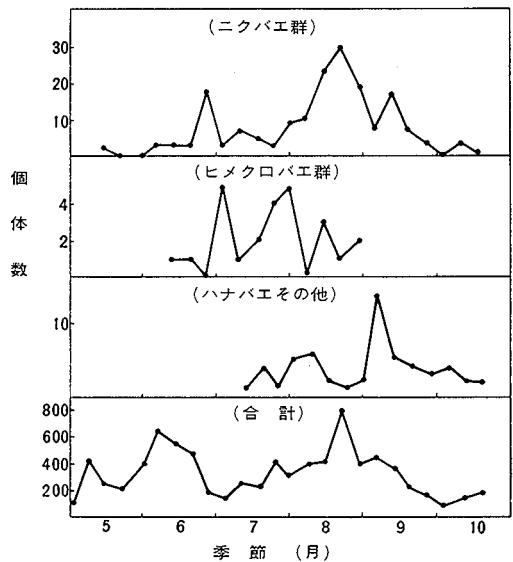
この調査は、1966年5月2日をスタートして10月17日まで行なわれたもので、調査方法は、坂出市内の飲食店営業5軒、魚介類販売業5軒を選び、毎週月曜日、ハエトリリボン、ハエ取瓶を装置し、24時間内に捕獲された、ハエの種類及び数量をその都度、分類、記録して追跡したものである。

調 査 結 果

上記の方法で調査集計した結果によるハエの種類は、イエバエ *Musca domestica vicina*. オオイエバエ *Muscina stabulans*. ヒメイエバエ(2種) *Fannia*. クロバエ(2種) *Callifora*. キンバエ(3種) *Lucilia*. ニクバエ(2種) *Sarcophaga*. ヒメクロバエ *Ophyra*. (2種) が認められた外に、衛生害虫としては一般にあまり取りあげられないハナバエ *Anthomy iidae*. の一種等も若干認められた。それらの季節的消長は、第1図、第2図の



第1図 捕獲したハエ各群の季節的消長



第2図 捕獲したハエ各群の季節的消長

とおりで、大勢的な個体数の消長を左右する種類は、クロバエ群、ヒメイエバエ群、イエバエ、オオイエバエ、キンバエ群で、季節の推移につれて、優占位が交替していることが明らかに認められた。すなわち、5月上旬～6月中旬は、クロバエ群、ヒメイエバエ群によって占められ、発消長の第1のピークを作っている。イエバエ、オオイエバエは、春より夏に向かって次第に個体数を増加し、イエバエは

9月中旬まで、オオイエバエは8月下旬までこの傾向を示している。また、キンバエ群は最も個体数が多く、8月下旬～9月中旬まで圧倒的な数を占め、調査期間中の最大のピークを作る原因となり、以降急激に減少している。次に魚介類販売業と飲食店を比較した、種類群別、月別の消長は第1表のとおりで、魚介類販売店に侵入するハエ群の個体数が常に多いことが認められた。

第1表 種類群別、月別、捕殺数 A：飲食店 B：魚介類販売店

種類別 月別	クロバエ群		ヒメイエバエ群		イエバエ		オオイエバエ		キンバエ群		ニクバエ群		ヒメクロバエ群		ハナバエその他		合計	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
5月	12	280	212	642	93	75	11	15	0	7	0	2	0	0	0	0	328	1,021
6月	32	518	375	265	126	89	18	66	8	360	2	25	0	4	1	3	562	1,330
7月	8	25	16	162	77	248	16	94	9	391	7	11	0	12	5	9	138	952
8月	2	6	29	78	155	410	64	263	16	1,267	27	67	0	10	1	11	294	2,112
9月	0	1	6	23	280	335	14	39	6	446	5	32	0	2	6	23	317	901
10月	0	1	3	8	123	233	12	18	2	12	1	5	0	0	3	8	144	285
合計	54	831	641	1,178	854	1,390	135	495	41	2,483	42	142	0	28	16	54	1,783	6,601

考 察

以上簡単に食品営業場に侵入するハエ群の季節的消長の大略を述べたが、今回の調査結果をみると、今までに数多く報告されている例と、若干、異なった点があるように思われる。すなわち、大体は西南暖地型の季節的推移を示しているが、日中平均気温 30°C を超えた（一般に昆虫の生活、生存には、むしろ不適当にかたむくと考えられる）8月に捕殺個体数の最大のピークがあることでこの理由は、調査場所が店頭であり、ある程度室温を下げる手段を講じていることが野外の調査とは条件を異にしており、深い関係があるのであろうと思われる。また、種類、群によって餌（食品）の嗜好性があり、営業の種類によって侵入するハエの種類、群が、かたよるものと想像していたが、期待に反して、魚介類販売店の方が各群共に絶対多数を占めているという結果を得た。とくに、ヒメクロバエ（2種）は、飲食店の方ではまったく捕獲できず、魚介類販売店にお

いてのみ捕獲できた。

以上2つのことは、公衆衛生上重大な意味を含むものと考えられ、他の食品工場等でも引継ぎ追跡調査する必要があると思われ、今後の課題としたい。さらにまた、種類、群によって、活動空間が多少ずつことなると思われる場合があり、捕獲方法によっては、数量の上にも、かなりいちじるしい変動を生ずるかも知れぬと考えられるが、ともかく、今回は、本年（1966）実施した調査の概要のみに止めたい。

摘 要

食品営業場に侵入するハエの種類と、その季節的消長を明らかにするために、1966年5月から10月までの間、調査を実施し、おおむね、次のような結果を得た。

- ① 調査期間に捕殺されたハエの種類は、クロバエ（2種）、ヒメイエバエ（2種）、イエバエ、オオイエバエ、キンバエ（3種）、ニクバエ（2種）、

ヒメクロバエ類(2種), ハナバエ1種であった.

- ② 種類群が, 季節の推移につれて優占位を交替することが明らかに認められた.
- ③ 発生のピークは, 6月中旬と8月下旬に2回認められた.
- ④ 飲食店と魚介類販売店を比較した場合, 各種類群ともに, 常に後者の方の個体数が多い結果を示した.

#### 参 考 文 献

- ① 堀 克重: 資源科学研究所集報,  
(15), 17—27, (1950)
- ② 堀 克重: 資源科学研究所集報,  
(19—21), 25—32, (1951)
- ③ 松沢 寛: 香川大学農学部学術報告,  
12(2), 255—259 (1951)
- ④ ———: 香川大学農学部学術報告,  
13(2), 159—162 (1962)
- ⑤ ———・塩崎靖子:  
香川大学農学部学術報告  
14(1), 32—39 (1962)
- ⑥ ———: 香川大学農学部学術報告  
14(2), 141—144 (1963)